

都内で地域介護セミナー開催 今後とも関東圏で随時開催



服部万里子氏

カシオ計算機(東京都渋谷区、櫻尾和宏社長)は5月20日、都内で「地域介護セミナー」を開催した。同セミナーはケアマネジャーや介護事業者、自治体関係者などを対象とする同社の

介護セミナーで、今回で5回目の開催となる。この日は日本ケアマネジメント学会副理事長で、本紙連載でもおなじみの服部万里子氏が、次期介護保険制度改正などをテーマに取り上げ、講演を行った。服部氏は、次期改正で要支援から要介護2までの利用者の福祉用具貸与や住宅改修、生活援助などの原則自己負担化が実施されれば、

「居室サービス利用者の危機にさらされる」と指摘。「おそらく利用者の自己負担は大きく膨らむ。介護保険を低所得の人が使えない制度にしてはならない」と訴えた。

また通所介護などで、要介護2までを地域支援事業へ移行させる財務省案に触れ、「要介護1、2の場合、要介護状態になる三大要因は認知症、脳血管障害、老



自治体関係者や介護士など参加する「地域介護セミナー」の様子

さらには厚生労働省が「保健医療2035」で居宅介護支援費の利用者負担導入を今後5年以内の検討事項に挙げていることに対して、いわゆる「御用聞きケアマネ」を生み出し、利用者本位のケアマネジメントに繋がらず、さらにはケアマネにとっても社会的評価の低下を招きかねないとの懸念を示した。同社では今後も随時、地域介護セミナーを開催する。

内田洋行 6月15日「これからの福祉セミナー」開催 淑徳大・結城教授が登壇

介護業務支援システム「絆シリーズ」を扱う内田洋行ITソリューションズ(東京都港区、新家俊英社長)は6月15日、都内で介護事業者を対象に「これからの福祉セミナー2016」を開催する。第一部は淑徳大学の結城康博教授による講演「平成30年制度改正に向けて、今、何を準備すべきか」。改正社

会福祉法の成立や、介護保険制度でも次期改正に向けた議論が進む中、今後の展望や運営で求められる取り組みなどについて解説する。第二部ではソフトバンクロボティクス(東京都港区、高澤文秀社長)による「介護現場のロボット活用の事例紹介を実施。人型ロボット「Pepper」の導入事例などを紹介する。日時6月15日(水)13時~17時。会場内田洋行新川本社(東京都中央区新川2-4-7)。参加無料。事前登録が必要で申込締切日は6月13日(月)18時までに、定員80人。問合せは内田洋行ITソリューションズ(03-5777-6716)まで。

在宅協東京支部セミナー
診療報酬から見る介護の方向性



「医介同時改定へ向けた準備」と呼びかける青木氏

日本在宅介護協会(浅野芳生会長)は、4月14日に介護事業者に向けたセミナーを開催。その中で「2016年度診療報酬改定と介護事業者に与える影響について」と題した講演を行った。

同協会東京支部代表の香取幹氏は冒頭、「医療と介護の同時改定となる18年度に向けた議論は、もう始

まっている。協会として、日常生活支援総合事業の効果や、要介護1、2の利用料を自己負担化したらどうなるのか主張できるように準備を」と呼びかける。講演では、福祉介護事業の経営コンサルティングを行うウエルビー(東京都渋谷区)の青木正人社長が登壇。青木氏は、「地域包括ケア推進と医療介護連携の観点から点数付けや改正が行われた16年からの診療報酬改定は、18年度に向けた下な

者と特にかかりのあるポイントを解説した。今回の診療報酬で新たに設けられた退院支援加算の要件に、介護支援専門員との連携実績として、必ずカンファレンスを行う必要があることや、介護支援連携指導料の引き上げが行われたことを説明。

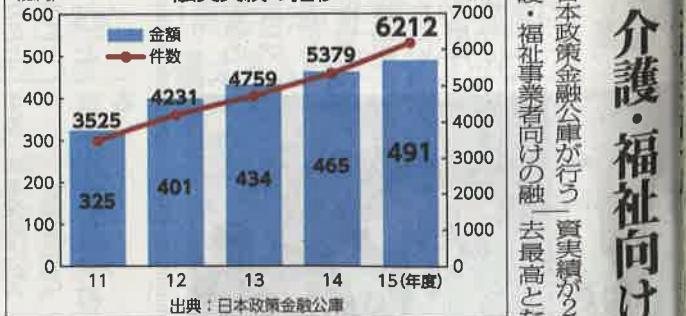
一方、居宅介護支援の医療連携の加算である▽退院・退所加算▽入院時情報連携加算▽緊急時等居宅カンファレンス加算などの取得率が低く、今後の前後と極めて低い点を指摘した。最後に医療と介護の一体改革に関わる今後のスケジュールを紹介し、今後介護事業者が注力すべき点として、「機能訓練の評価など、日頃感じている手ごたえを、介護のエビデンスとして示していくことが重要」と強調した。

による維持期リハが長期化していることにもふれた。廃用症候群以外の脳血管疾患等リハビリテーション患者の約5割は比較的ADLが高く、医療保険のリハビリが長期化していることから、医療側に「目標設定支援管理料」を新たに設定し、受け皿となる介護側にはリハマネ加算などの大幅な引き上げが追加されたことなどを説明した。

また、脳血管疾患等リハでは2割が標準算定日数以後3年以上経過しており、一部の患者で医療保険

日本看護協会(坂本すが会長)は5月8日、「看護の日・看護週間」の中央行事として第6回「忘れられない看護エピソード」表彰式を開催した。3305通

介護・福祉向け融資が過



日本政策金融公庫が行う「介護・福祉事業者向けの融資実績」が2015年度、過去最高となった。1年間業融資の融資件数は6212件で、前年度比15.5%増。融資合計額は491億円(同5.6%増)にのぼった。全体の7割以上を占める介護事業者向けの融資件数は4416件。前年度比は44.16%増と、最も伸びた。

日看協 看護の日「忘れられない看護エピソード」表彰 全国3305作品から



最優秀賞を受賞した庄崎さん(前列左)

の応募作品から看護部門・一般部門それぞれ最優秀1作品、内館牧子賞1作品を選出した。看護部門の最優秀賞に輝いたのは、庄崎美恵さん(37歳、長崎県)の「専属ナース物語」。庄崎さんの父親が肝臓癌を患い、庄崎